

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 【学校像】

- 1 関係法令に基づき、人格の完成をめざす。志を高く掲げ、朝鍛夕練の学校生活にする。
- 2 進学等を前提とした魅力あふれる普通科の高等学校を創っていく。
- 3 授業の工夫・充実等で学力の向上をはかり、学習成果を生活や進路確保にいかすようにしていく。

## 【生徒像】

- 1 「確かな学力の育成・豊かな心の育成・健康体力づくり」に取り組み、生涯を逞しく生き抜く力を育む。
- 2 豊かな知識と正しい判断力を備え、自己を磨き人間関係を深め、よきリーダー等社会に貢献できる生徒を育てる。志の高い（熱意と前向きな考え方を持った）生徒を育てていく。法令に基づき、人格の完成をめざす。志を高く掲げ、朝鍛夕練の学校生活にする。

## 2 中期的目標

## 1 学力向上と進路実現

- (1) 新学習指導要領と本校の実情や将来像をふまえ、基礎的・基本的な学力（「確かな学力」）の定着と発展的な内容への取り組みをめざす。
  - ア 進路目標に応じたコース（文理系・文系・総合）の指導を強化し、進路指導等のホームルーム活動やガイダンス活動を充実させる。
  - イ 学習ニーズの多様化をふまえた選択科目の充実をはかり、生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望に応じて学習できる教育活動の展開に努める。
  - ウ 「学習基礎」（朝のモジュール型学習：通称朝学）で、「モジュメディアステーション」を活用して「確かな学力」を身につけさせる。  
\*学力生活実態調査において、平成 28 年度に B ランク以上の成績を有する生徒が、学年総数の 60%を超えることを目標とする。
- (2) 「充実した授業」をめざし、授業力向上に取り組む。
  - ア 学習支援室を主体として、教員の授業見学や研究授業の活性化など、教科横断的な授業力向上への取り組みを充実させる。
  - イ 「学校教育自己診断」や「生徒の授業アンケート」等を利用して授業改善に努め、生徒の授業満足度を向上させる。
  - ウ 視聴覚教材メニューを充実させて、「モジュメディアステーション」の積極的活用を図る。  
\*「授業アンケート」の生徒の満足度（質問項目 8・9「興味・関心」「知識・技能」）を平成 25 年度（1 回目 65・2 回目 67%）より毎年 2 ポイントアップさせる。
- (3) 生徒の進路希望を実現させる。
  - ア 授業の充実の他、講習・ガイダンスの充実等をはかるとともに、25 年度より導入した英語学力調査を指標として、入試結果の実績維持・伸長をめざす。  
\*英語学力調査のスコアを平成 28 年度に 440 以上にする。  
\*中堅・難関私立大学合格者数 3 ケタ

## 2 志学・総合学習の推進

- (1) 志を持ったよき社会人として、自立と創造する力を養うための、志学・総合学習実施計画を推進する。
  - ア 企画立案する志学総合推進チーム内の企画グループと実践グループが、志学・総合学習を推進していく。
  - イ 志学総合推進チームは、分掌、委員会、教科、教員個人の実践やスキルの中から多くの効果的な情報を得て、より充実した取り組みになるよう企画立案・実践していく。
  - ウ 平成 25 年度改訂の志学テキストの内容の充実・改善に努め、活用を促進していく。
  - エ 人権（基礎）教育、ボランティア活動、キャリア教育、ライフプラン作成等、各分野での実践を検証し、志学との相乗効果を図る。  
また、「モジュメディアステーション」を活用して、全体および分野別の指導をマニュアルに沿って実践し、高い志をはぐくむ。

## 3 府民に信頼される魅力ある学校づくり

## (1) 生徒支援体制の確立

- ア 支援相談委員会が、「高校生活支援カード」を活用して、課題を抱える生徒や自己に責任がない理由で学校生活を送ることが困難な生徒、障がいがある生徒等に対して、実態の把握と個別の支援策を考えるとともに、「個別の支援計画」を作成し支援していく。
- イ 支援の必要な生徒に対する支援方法等の研修を行い、共通理解の促進と実際の支援の充実を図る。
- ウ 自治会活動に対する指導の充実を図り、文化祭、体育祭等の諸行事をさらに活性化させ、充実感を育むとともに、地域や保護者との交流を深め、互いの信頼関係を促す。
- エ 生徒のマナー意識、規範意識等の向上をめざし、あいさつのできる生徒、遅刻数のさらなる減少、自転車事故等の防止をめざす。そのため、生徒自治会と連携して、あいさつ運動・安全指導・マナー向上運動等を実施する。
- オ 人権教育を中心に、命の大切さを学び、自他を大切にす基礎的な人権意識の醸成を図る。
- カ 夢を育み目標をかなえるライフプランを作成させることで、将来に向けての意欲を引き出し、生徒それぞれの潜在能力を開花させていく。  
\*遅刻者数の前年度比 10%減をめざす。

## (2) 開かれた学校づくり

- ア より開かれた学校をめざし、積極的な情報提供や広報活動を展開していく。
- イ 創立 90 周年（平成 24 年度）の記念事業の成功を踏まえて、今後、生徒・保護者・教員・同窓会等オール阿倍野態勢を推進していく。「阿倍野高校前進プラン 100」の推進など、さらなる進化発展（「めざす学校像・生徒像」の実現と、地域・関係者からの高い評価）をめざす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>「学校が楽しい」について、保護者・生徒とも肯定値が 80%を超えている。また「入学させてよかった」という保護者は 90%を超えており、この状況を今後も充実発展させていきたい。</p> <p>【学習指導】 教員の肯定値「年間の計画の話合い」「指導方法の改善・工夫」が 87%、「思考力・問題解決的指導」が 68%と昨年に比べて 10～15 ポイント上昇した。また、生徒の肯定値「自分の考えをまとめ発表」が 61%、「授業が分かる」が 69%、「質問しやすい」が 64%と、昨年に比べて共に 10～15 ポイント上昇しており、教員と生徒が共によりよい授業をめざして努力した結果が表れた。ただ、教員の「授業の計画・工夫」に関する肯定値が約 87%なのに対して、生徒の「分かる・質問しやすい」肯定値が 70%を下回っており、両者の意識の差は依然として継続課題である。</p> <p>【生徒指導】 「基本的生活習慣の確立」について教員の肯定値は 89%、生徒の肯定値は 82%、「生徒指導方針に理解」について保護者の肯定値は 85%と共に高く、遅刻指導をはじめ、服装やマナー指導については確立されており、学習環境を整え、社会性を身に付けるという共通理解も得られている。その一方で「教育相談」「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導」についての教員の肯定値は 60%、「悩みに親身になって応じてくれる」「気軽に相談できる」についての生徒の肯定値は 50%程度に留まり、教育相談の体制の見直しやカウンセリングマインドの啓発などの課題がある。</p> <p>進路指導については「進路実現に向けて適切な情報提供がある」の生徒の肯定値が 85%、保護者が 83%と昨年度より 5～14 ポイント上昇し、高い評価になった。その一方で、「きめ細かい指導」について生徒の肯定値が 66%、教員の肯定値が 58%と比較的低く、担任や教科担当が個別に進路の相談に乗り、対応する環境を整えることが課題として考えられる。</p> <p>学校行事に関しては昨年度同様、生徒の肯定値が 80%以上、教員・保護者の肯定値は 90%以上であった。生徒の主体的な運営に向けて教員が適切な指導を行った結果と捉えることが出来る。</p> <p>【学校運営等】 「適正・能力に応じた校内人事や分担がなされ、意欲的に取り組める」「分掌・学年の連携・組織的に機能している」「各種会議が意思疎通・意見交換の場として有効に機能している」についての教員の肯定値が 40～50%であった。継続課題として、報告・連絡・相談を心がけ、各会議での情報の共有化を図ると共に、会議が有効に機能するよう目的の明確化や実施形態の工夫等を行う必要がある。</p> <p>また、施設・設備面に関しては昨年度に比べて、「破損物の修理」について生徒の肯定値が 54%で 1%下降、「学習環境面での満足」について保護者の肯定値が 66%で 2 ポイント下降、教員の「点検・管理」についての肯定値 52%と 20 ポイント下降し、トイレをはじめ施設面での改善が急務であることが明らかになった。</p>	<p>第 1 回（7 月 2 日） 進学データはよくなってきているので、今後はもっと実績につながるよう頑張ってもらいたい。「志」をしっかり育てる教育を実践してほしい。部活動を活性化し、文武両道をめざすなかで生徒の主体性を高めていってほしい。</p> <p>第 2 回（11 月 12 日） 授業については、先生によって分かりやすさ等に差が出てきたときに、教え方の差としてお互いが認識し、連携が取れていたら良い。共通教材を通して、先生方が情報交換しながら、より良い授業作りにつながっていくことが大切だ。そのための研究授業も、ますます頑張っていたきたい。</p> <p>第 3 回（2 月 10 日） 学校が楽しいという点では満足感があるが、進学に関しては危機感を持ってほしい。生徒に伝える進路情報を保護者にも伝えてほしい。電子黒板は使い方が今後の課題だ。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
(1) 学力向上と進路実現	<p>(1) 学力向上・進路実現に向けた取り組みの強化</p> <p>ア 授業改善を進め、学力向上に向けた取り組みの強化</p> <p>イ 新教育課程の取り組みの充実</p> <p>ウ 進路指導方針の確立と生徒支援・進路実現に向けての取り組みの充実</p> <p>エ 生徒へのガイダンス機能の充実</p>	<p>ア 学習支援室と各教科が連携して、授業アンケート（年2回実施）、学校教育自己診断、相互授業見学等に取り組み、結果を総合的に分析し、課題を共有し、更なる授業改善を進める。</p> <p>イ a 「学習基礎」（朝学）については、モジュメディアステーションの活用による「みる」「きく」等の感覚機能を活かした取組を計画し、実施する。</p> <p>b 「学習・進学PJ会議」を設置し、学習面、進路面での諸課題に迅速に対応できる組織を作る。</p> <p>c 「土曜学習会」をはじめ、学習支援への取組を充実する。</p> <p>ウ a 新教育課程における進路目標に基づいて、進路指導の方針を確立する。その中で「進学講習」「学習キャンペーン」等を推進し、質的・量的な充実を図る。</p> <p>b 進路指導部と連携し阿倍高塾の授業内容の充実を図る。</p> <p>c 高校入学時の学力の維持・向上に努めることを目標として、英語学力調査、実力診断テスト、実力判定テスト等を用い、進路実現を図る。</p> <p>エ 学習ガイダンス、進路ガイダンス機能を充実させる。（選択科目説明会・進路別説明会・学問別説明会等の充実）</p>	<p>ア a 授業アンケート、学校教育自己診断による経年比較。25年度（生徒満足度、「わかりやすい授業」49%、「教え方に工夫」51%）より2%上昇</p> <p>b 経験の少ない教員をはじめ、各教科で授業研究年1回以上の実施。</p> <p>イ a チェックテストの経年回数比較。一斉映像配信教材の研究と作成。英語、国語、数学。生徒アンケートによる取り組み意識の向上率70%以上</p> <p>c 「土曜学習会」参加者数（25年度130名）と各講習参加者数の5%増加</p> <p>ウ a 平日の家庭学習時間60分以上の生徒の総数が学年総数の過半数（50%）を超えること。</p> <p>b 阿倍高塾次年度希望者数（25年度85名）の5%増加、満足度の5%上昇</p> <p>c ・学力生活実態調査等の成績の経年比較とBランク以上の成績を有する生徒の総数が学年総数の過半数（50%）を超えること</p> <p>・英語学力調査の経年変化</p> <p>・中堅・難関私立大学合格者数の3ケタ達成</p> <p>エ 各説明会等での生徒および保護者アンケートの実施による検証を経て、充実・改善を進める。</p>	<p>ア a 「わかりやすい授業・教え方に工夫」69%に上昇。(◎)</p> <p>b 相互授業見学は一人当たり2回以上の見学を実施。(◎)</p> <p>イ a チェックテスト年3回の実施。生徒取組意識72%(◎)</p> <p>b 学習進学PJ会議を現時点で8回開催し、多岐にわたる方策を検討した結果、実施するものを決定。(○)</p> <p>c 平均164名参加。昨年度より26%増加した。(○)</p> <p>ウ a 学習キャンペーンの結果より1年50%(○)2年40%(△)3年69%(◎)</p> <p>b アンケート形態変更（受講者のみに調査）のため、比較できない。(△)</p> <p>c (国数英)春・秋の結果から1年B2→B2(○)2年C1→B3(◎)3年C1(△)</p> <p>(英)春・秋の結果より1年B3→B2(◎)2年B3→B3(○)3年C1(△)</p> <p>英語学力調査のスコア H25→H26 1年368.7 2年362→356.7(△) 3年370→391.9(○)</p> <p>中堅難関大(偏差値50以上)現役合格数(3月末現在)近大等計181(◎)</p> <p>エ 進路指導の保護者満足度は全学年80%以上。(○)</p> <p>進路指導・情報提供に関する肯定値は生徒85%(昨年より5ポイントUP) ○ 保護者83%(昨年より14ポイントUP) ◎ 教員58%(昨年より13ポイントDOWN) △</p>
(2) 志学・総合学習の推進	<p>(1) 志学、キャリア教育、総合学習を総合的に行う実施計画の推進</p> <p>ア 総合的に行える組織の充実</p> <p>イ 新教育課程を踏まえた取り組みの充実</p> <p>ウ 新たに導入されたモジュメディアステーションを活かして今までの取り組みの充実と発展を図る。</p>	<p>ア a 志学総合委員会で、学年と連携して新教育課程の総合学習および志学の指導内容を充実する。</p> <p>b 総合学習・キャリア教育の取り組みの推進および志学テキストの活用の充実を進める。</p> <p>イ a これまでの取組の検証を踏まえて、引き続き、芸術鑑賞、人権講演会、美化活動、挨拶キャンペーン、志学の川柳募集などを企画し、その充実を図る。</p> <p>b 「花いっぱい学校・日本一きれいな学校」を目標に、美化活動をより推進する。</p> <p>ウ モジュメディアステーションを活用した取組を推進する。</p>	<p>ア a 系統立てたキャリア学習を計画する。</p> <p>b ・アンケート「働くこと」の大切さ理解25年度95%の維持向上。</p> <p>・教員アンケート肯定値「キャリア教育」(50%)の5%向上。</p> <p>イ a アンケート「豊かな心や生き方について考える機会がある」1年肯定値(25年度59%)の5%向上</p> <p>ウ モジュメディアステーションを活用した教材を作成(志学、人権、美化活動)</p>	<p>ア. キャリア教育に関する肯定値が昨年度より8ポイントのダウンとなっている。(△)</p> <p>イ. 1年生の肯定値は昨年より30ポイントの上昇となった。(◎)</p> <p>ウ. 朝学習に対する活用は2年目を迎え充実している。その他の応用的利用については今後、運用しながら探る。(○)</p>
(3) 府民に信頼される魅力ある学校づくり	<p>(1) 安全で安心な学校づくりと意欲ある学校生活</p> <p>ア 支援相談委員会の充実</p> <p>イ 生徒支援室関連業務の充実</p> <p>ウ 美化関係業務の充実</p> <p>(2) より積極的な情報提供と広報活動の展開</p>	<p>ア 支援相談委員会を充実させ、必要に応じてケース会議等を開催し、生徒支援の充実を図り、集団生活の充足感を育成する。</p> <p>「高校生活支援カード」を面談などで活用。</p> <p>イ a 自治会を中心とした生徒会活動の支援体制の強化と、生徒部全体で各行事のより一層の進化発展をめざす。</p> <p>b 何度も遅刻を繰り返す生徒に対する指導を徹底する。</p> <p>c 安全な通学、特に自転車通学の事故防止（標語&amp;啓発、推進月間・推進週間の設置）と自治会としての啓発活動の推進。</p> <p>d 風紀委員の役割の充実（挨拶・自転車駐輪指導等）</p> <p>ウ a 年3回の安全点検を実施し、危険を排除する。</p> <p>b 清掃の確実な実施。</p>	<p>ア 自己診断の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定値(25年度51%)の5%上昇</p> <p>イ a 各行事で生徒アンケートを実施 生徒満足度の3%向上(25年度 体育大会90% 文化祭80%)</p> <p>b 遅刻者数→前年比10%減</p> <p>c 自転車通学生徒へのアンケートによる実態調査(年2回)→生指キャンペーンによる交通法規遵守、マナーの向上</p> <p>d 挨拶・自転車駐輪についての生徒アンケートの実施。</p> <p>ウ a 安全点検を実施し、危険箇所を速やかに改善して、自己診断の「施設等が壊れたときは、すぐに修理されている」の肯定値(25年度55%)の5%上昇</p> <p>b 学校教育自己診断「清掃がいきとどいている」の肯定値(25年度50%)の5%上昇</p>	<p>ア 肯定値の5ポイントアップは達成した(約10ポイントの上昇)(◎)</p> <p>「高校生活支援カード」の活用については、活用方法を検討したい。</p> <p>イ a 生徒満足度82%(○)</p> <p>b 遅刻者数10ポイント減(○)</p> <p>c 実態調査 実施せず</p> <p>d 生徒アンケート 実施せず</p> <p>ウ a 年3回の安全点検を実施したが施設の老朽化、予算不足で充分対応出来なかった。(52%)</p> <p>b 日々の清掃活動、清掃分担の工夫で50%→61%に上昇した。(◎)</p>
		<p>ア ホームページの充実を図る</p> <p>イ 広報活動の展開を図る 中学校訪問の戦略化を図る。</p>	<p>ア 学校教育自己診断(保護者)「学校のホームページをよく見る」の肯定値(25年度27%)を34%</p> <p>イ 教員による中学校訪問数(25年度80校)を120校</p>	<p>ア 「HPをよく見る」の肯定値28%(△)</p> <p>イ 25年度80校の対象校を147校に増やし訪問した(◎)</p>